

ミソサザイ *Troglodytes troglodytes* (Linnaeus)

【選定理由】

県内では標高の高い山地にある、比較的暗い谷や沢で繁殖する。県内周辺の観察記録に、愛知県鳥類生息調査の結果を合わせてみると、近年の県内における繁殖期の生息数は減少傾向にあり、特に標高 800m 以下で繁殖する個体群の減少が顕著である。平野部周辺や半島にある愛知県の調査地では、越冬期の確認記録が数十年前から全くなっている。尾張地域や渥美半島など、繁殖地が存在する山塊から隔たれた調査地での記録がなくなっていることから、愛知県をはじめ中部地方全体で繁殖する本種の数は、ここ数十年の間に大きく減少していることが推測される。

【形態】

全長 10.5cm。体の上面は濃褐色で、黒褐色の横斑がある。下面は灰褐色で褐色の横斑があり、下尾筒には白斑がある。眉斑はバフ色で細い。



【分布の概要】

【県内の分布】

東三河や西三河にある山地の、主に標高 600m 程度以上の場所で繁殖する。冬期もその山塊で生息するものが多いが、丘陵地や平野部、半島部で越冬する個体もいる。

【国内の分布】

大隅諸島以北に周年生息し繁殖するが、冬期に暖地へ移動するものもいる。

【世界の分布】

ヨーロッパ、アフリカ北部、中東、中央アジア、ロシア極東南部、サハリン、千島、カムチャツカ、朝鮮半島、台湾、北アメリカで繁殖し、北方のものは冬期に南下する。

【生息地の環境／生態的特性】

繁殖期におよそ 600m 以上の標高にある谷や沢などに生息し、主に溪流沿いの地上にコケなどを使って営巣する。繁殖期や繁殖前期にはツィリリリチャヒヒチリリ・・・など複雑でよく通る大きな声で囀る。地鳴きはウグイスより高く小さな声で、チョッ、チョッと聞こえる。越冬期も繁殖地の山塊で生息するものが多いとされるが、以前は尾張東部丘陵の麓や木曾川下流、知多半島や渥美半島の沿岸部など、繁殖地のある山塊から遠く離れた場所でも越冬期には普通に生息が確認されていたが、近年こうした場所での記録は希となっている。

【現在の生息状況／減少の要因】

繁殖期の段戸裏谷では、1980年代以降明らかに生息数が減少している。越冬地である岩屋堂でも、以前は越冬期に複数羽の記録があるが、2000年以降は1羽を超える記録がなくなっている。明らかな減少の要因は不明であるが、地球温暖化や人工林の未整備、開発や観光地化などによる環境変化が考えられる。

【保全上の留意点】

標高が高く林業生産に不向きな人工林は、伐採等で一時的に環境が悪くなっても、落葉広葉樹林や針広混交林など本来の森林環境に復元することが望ましい。

【特記事項】

昔から、秋冬は人間社会のごく身近に存在していた種である。当時の隙間だらけの民家の中を、藪の一部であるかのように通過することが普通であり、古事記や日本書記の時代から人間に親しまれてきた小鳥である。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.232. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)